

東北農政局主催「東北地域オーガニックビレッジフォーラム」(R7.7.28)

有機農業・グリーン化の推進と価値の共有に向けて

資料3

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会 代表
大崎市産業経済部 世界農業遺産推進監 安部祐輝

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

世界農業遺産 大崎耕土

「持続可能な水田農業を支える

大崎耕土の伝統的水管理システム」

世界農業遺産（GIAHS）

- ・ 世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定
- ・ 世界では24カ国78地域、日本では15地域が認定（令和5年7月現在）

<世界遺産（UNESCO）との違い>

世界遺産

- ・ 不動産で歴史重視
- ・ 遺跡や建造物が主
- ・ 「～してはならない」
- ・ **現状を変えないことが基本（保護・保存）**

世界農業遺産

- ・ システムで未来志向
- ・ 進化する知恵の遺産
- ・ 「～したほうがいい」
- ・ **社会や環境に適応した動的な保全**

<日本の認定地域>



→ **未来に残す（次世代に引き継ぐ）**

世界農業遺産の5要素と大崎耕土の農業システム



生物多様性を保全，生きものと共生する農業を推進



シナイモツゴ郷の米 プロジェクト



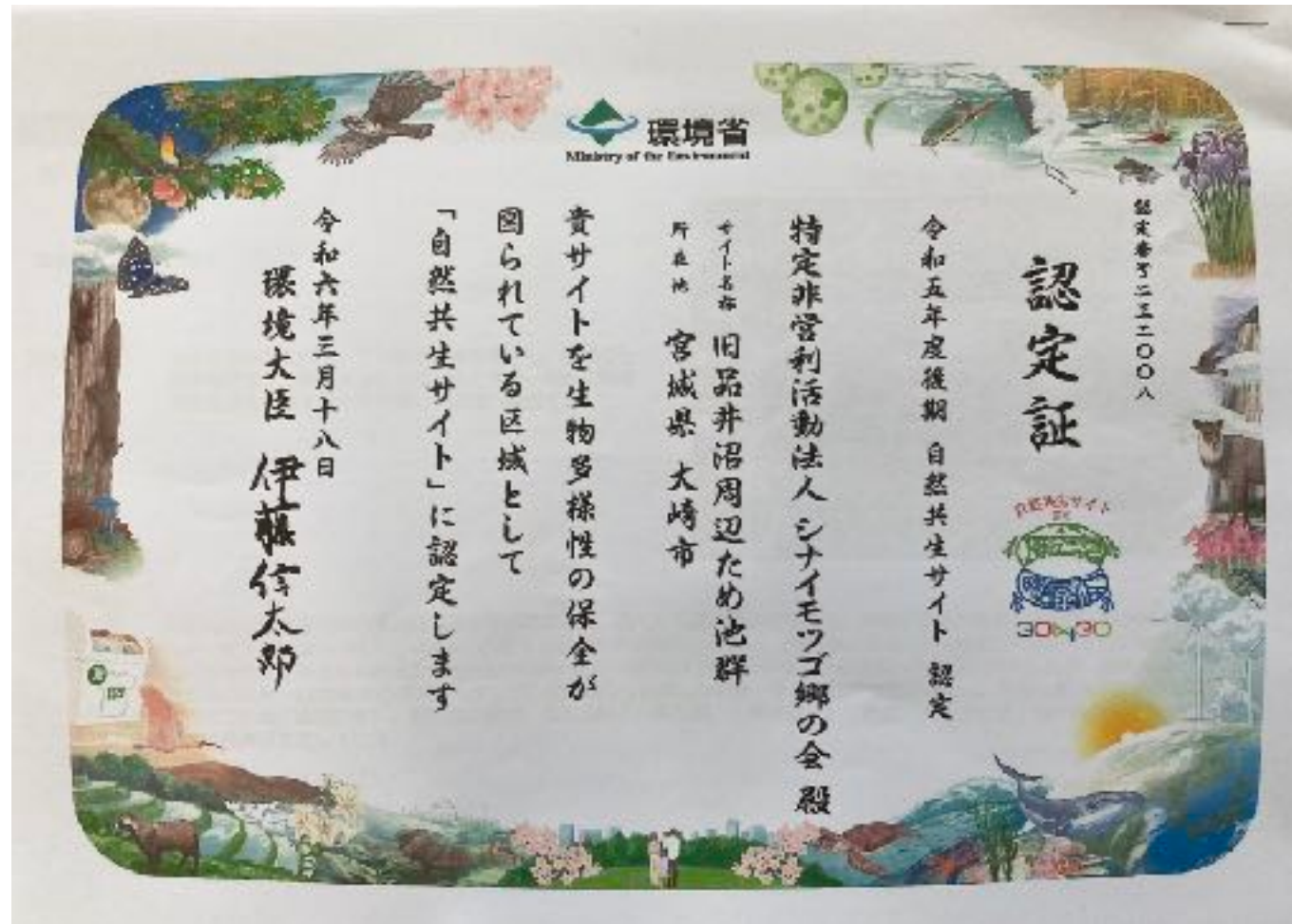
これが、希少淡水魚であり、絶滅危惧種の小さい魚
”シナイモツゴ”



「シナイモツゴ」を守るため、ため池でブラックバスや、
アメリカザリガニの駆除活動



環境省”自然共生サイト”に認定 「旧品井沼周辺ため池群」



今後、国際データベースOECDに登録へ！

ふゆみずたんぼ プロジェクト



冬の水田に水を張る「ふゆみずたんぼ」という取り組みを実践
日の出と共に、渡り鳥が沼を飛び立つ。蕪栗沼には渡り鳥が毎年10万羽以上

冬に蕪栗沼周辺の水田に水を張ることで、渡り鳥のねぐらを分散させるという取り組み

ふゆみずたんぼ ~渡り鳥と共生する農業~



冬に水を張り，農薬や化学肥料を使わないことで，春や夏にはカエルやイトミミズなど多様な生き物が生息，イトミミズによるトロトロ層ができ，草も生えにくい状況となる。

有機JASの認定も取得し営農を実践

また、地域住民による水田などの生きものの調査などを行い，生物多様性の理解を深めるとともに、渡り鳥を観察するエコツーリズム



国内農業の現状・課題

- 生産者の減少・高齢化
- 温暖化，大規模自然災害
- SDGsや環境への対応強化



農林水産省が令和3年5月に「**みどりの食料システム戦略**」を策定

- 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大 etc.

市内での有機農業・グリーン化の推進

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会(R4年5月～)

○目的

みどりの食料システム戦略と協調，**グリーンな栽培体系**への転換に資する検証事業に取り組み，世界農業遺産「大崎耕土」で有機農業や環境保全型農業の普及を図る。

***グリーンな栽培体系** → 「環境にやさしい栽培技術」及び
「省力化に資する先端技術等」

○協議会の構成員

農業者，農機メーカー，JA等の農業団体，県や市の行政等関係者で組織する。

市内での有機農業・グリーン化の推進

○活用事業：農水省『グリーンな栽培体系への転換サポート』（R4～R6）

○実践内容：平地部会と中山間部会に分け、地域に合わせた栽培実践と検証を実践。

- ・ **アイガモロボ**活用による水田の雑草抑制
- ・ **スマホ水管理システム**による水田水位の遠隔管理



アイガモロボ



**スマホ
水管理システム** 12

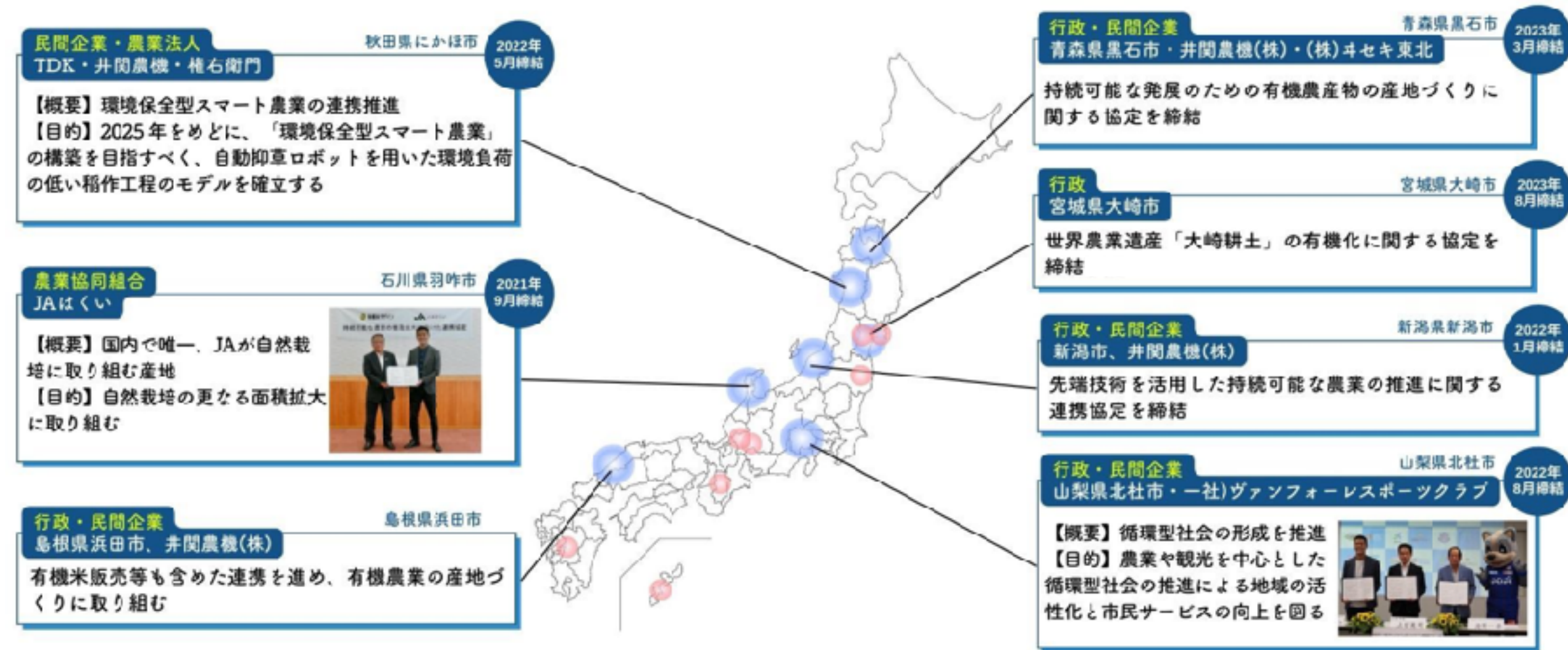
(株) NEW GREENとの連携協定, 持続可能な農業推進



R5年8月締結



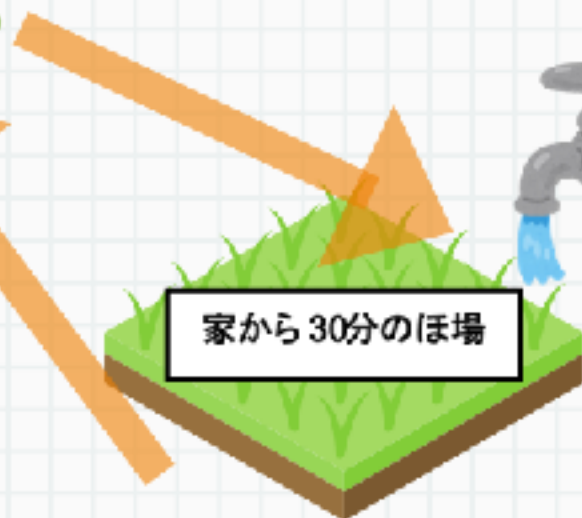
アイガモロボを活用した有機産地形成の連携協定



01

「水管理」をする生産者の苦勞

例：家から離れたほ場に1日 **何度も** 確認しに行かなきゃいけない！



- ・見に来たはいいけど
思ったより水が溜まってない ...
- ・往復1時間も...その間に別の
作業ができるのになあ
- ・何枚もある離れた田んぼを
1人で回りきれないよ

生産者



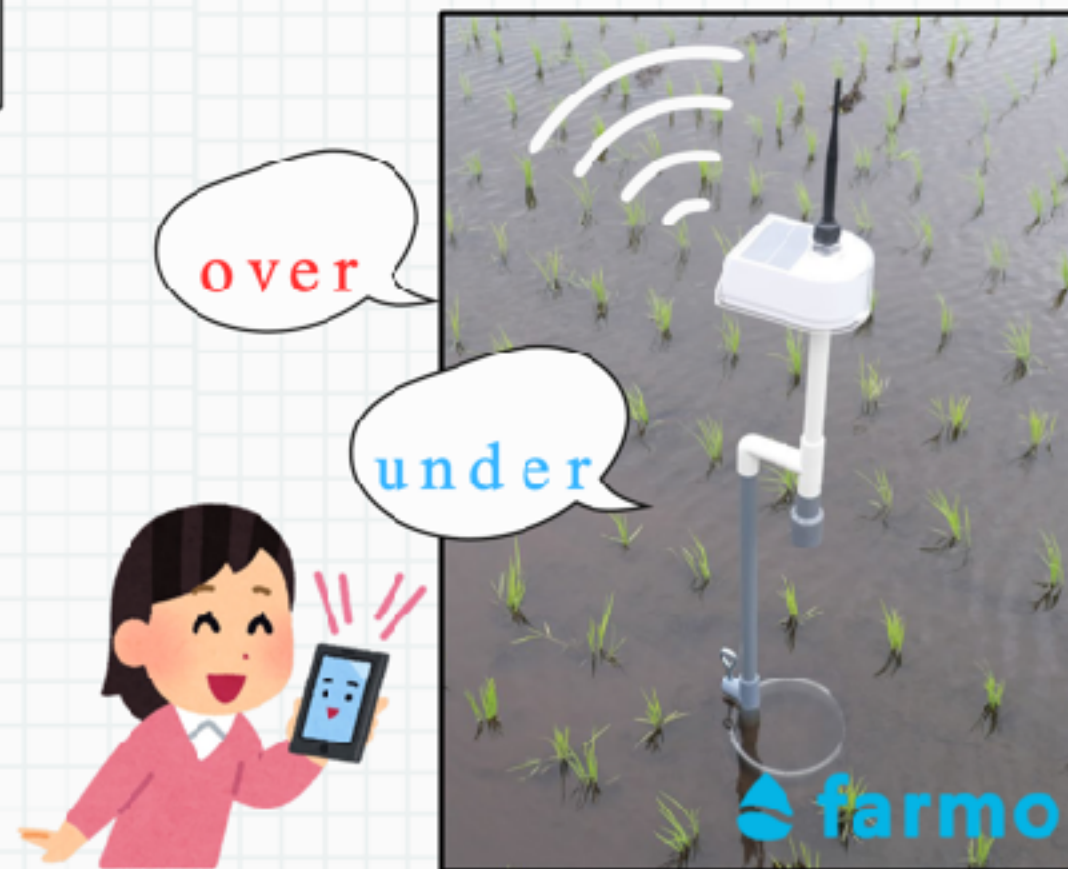
05

水田farmoについて

水田farmoとは

水田の水管涵に関する労力を大幅に削減する、IoT水管涵システムです。水位センサーと給水ゲートを水口に設置すればスマートフォンなどで簡単に遠隔より水位を確認、操作ができます。また、スマートフォンのアプリと連動させ、スマートフォンやタブレット端末でいつでもどこでも水位の確認と入水・止水を行うことができます。ため、間断灌水や追肥時の水管涵に役立ちます。

(水位・水温センサー, グラフ化)



05

水田farmoについて

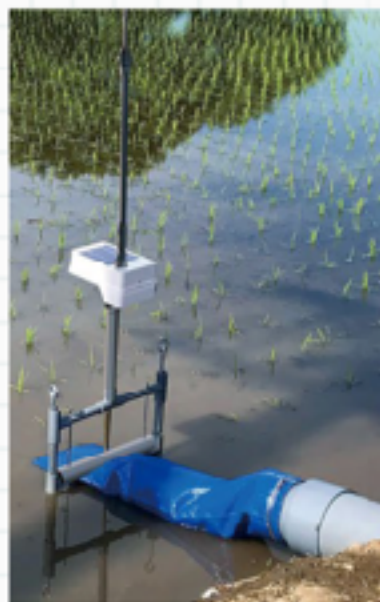
水田farmoの製品 水位センサー

水位センサー



遠くの水田の水位をスマホで確認できるクラウド対応の水位センサーです。いつでもどこでもスマホで水田の水位が分かり、毎日の見回り時間を大幅に削減できます。

給水ゲート



便利な自動給水装置。主に開水路で利用します。簡単に設置でき、取り外しも簡単です。遠隔操作でゲートを開閉し、ホースを挟んで入水、止水が行えます。

給水バルブ



バルブで給水・止水しているパイプラインに製品を設置、支柱で固定し簡単に設置できます。遠隔操作でバルブが開閉し、入水、止水が行えます。